

## 日本初、超高層大型建築作業所で100%再生電力を使用

戸田建設(株)(社長:今井 雅則)は、都内の超高層大型建築作業所(東京駅前常盤橋プロジェクトA棟新築工事他)の工事用電力を2019年9月1日より100%再生可能エネルギー電力<sup>※1</sup>に切り替えました。超高層の大型建築作業所で100%再生可能エネルギー電力を使用するのは日本初のケースです。

当社は2019年1月のRE100イニシアチブ<sup>※2</sup>への加盟後、事業活動に使用する電力の再生可能エネルギー電力への切り替えを推進しており、同年7月には自社の筑波技術研究所の電力を再生可能エネルギー電力に切り替えています。

東京駅前常盤橋プロジェクトA棟新築工事他では、エバーグリーン・マーケティング(株)(社長:田中 稔道、以下、EGM)から、実質再生可能エネルギー100%となる電力を受電しています。

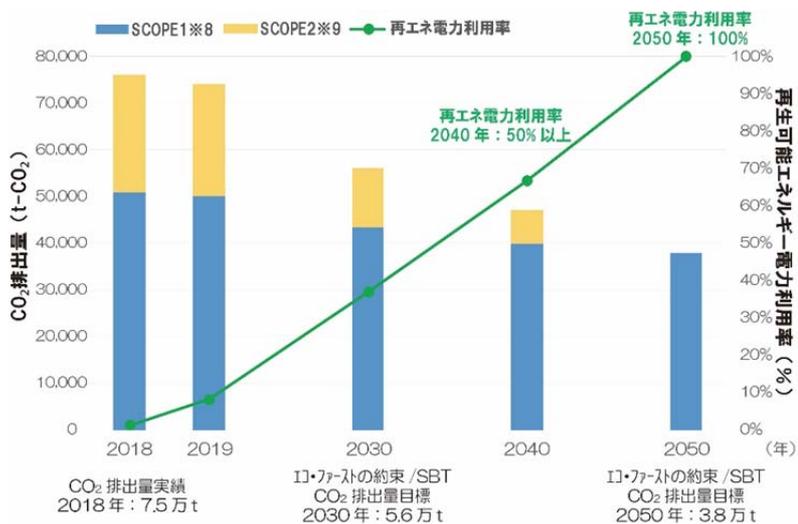
EGMが供給する電力は、波崎ウインドファーム風力発電所を中心とした各所の太陽光発電所から調達したFIT<sup>※3</sup>電気に、これらの発電所のトラッキング付非化石証書<sup>※4</sup>を付加したものです。これにより環境価値<sup>※5</sup>を伴ったRE100基準を満たす再生可能エネルギー電力と認められます。

当社のRE100へのロードマップでは、事業活動に使用する電力を2040年までに50%、2050年までに100%再生可能エネルギー電力とすることを目標として、その利用を推進しています。また、当社はこれらを推進することで、エコ・ファーストの約束<sup>※6</sup>を遵守し、SBT<sup>※7</sup>において設定しているCO<sub>2</sub>排出量の削減目標の達成も目指しています。

当社は今後も持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

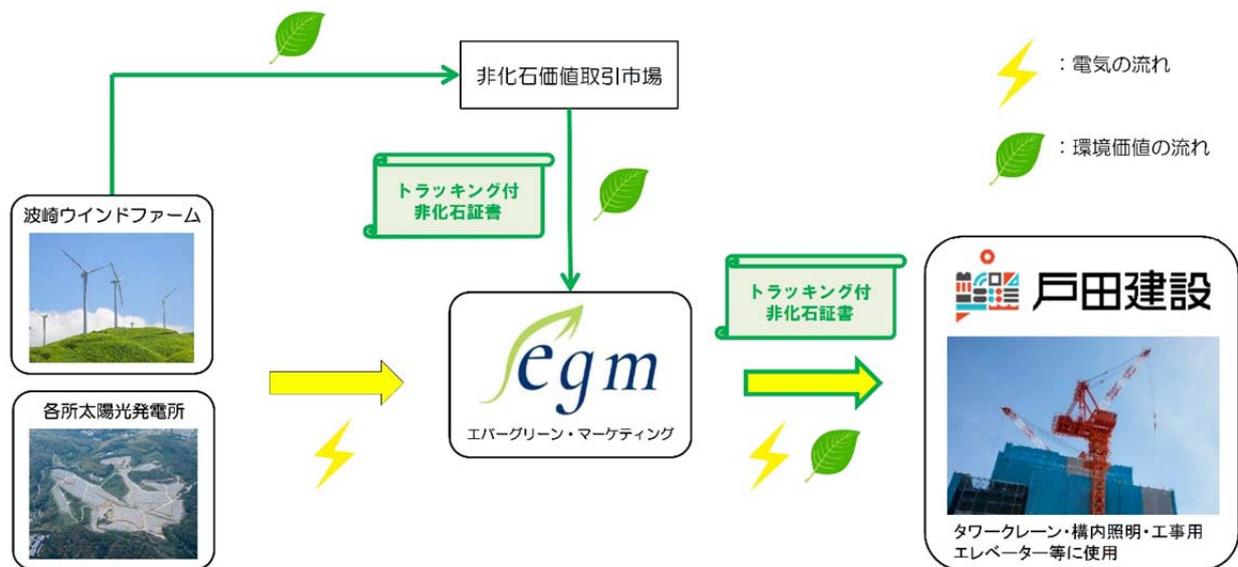


東京駅前常盤橋プロジェクトA棟  
完成予想図



戸田建設のRE100達成に向けたロードマップ

再生可能エネルギー電力利用率 = 再生可能エネルギー電力使用量 ÷ 事業活動における電力使用量



100%再生可能エネルギー電力の調達スキーム



※1 再生可能エネルギー電力：再生可能エネルギー電源から発電された電気

※2 RE100 イニシアチブ：事業運営に使用する電気を100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業が参加する国際企業イニシアチブ

※3 FIT (Feed-in Tariff)：再生可能エネルギーを用いて発電された電気を、国が定める価格で一定期間電気事業者が買い取ることを義務付ける制度

※4 トラッキング付非化石証書：FIT対象の再エネ発電所の電気に対して、属性情報として発電源が特定されている再生可能エネルギー証書

※5 環境価値：再エネ発電所の電気が有する「電気そのもの」の価値以外の「CO<sub>2</sub>を排出しない電力である」という価値

※6 エコ・ファーストの約束：環境大臣に対して約束した企業の環境保全に関する取り組みであり、当社の主な目標はCO<sub>2</sub>排出量を2050年に1990年比で80%削減

※7 SBT (Science Based Targets)：SBTイニシアチブが推進する、産業革命前からの気温上昇を2°C未満に抑えるための科学的根拠に基づいた温室効果ガス排出削減目標

※8 SCOPE1：軽油、ガソリン等の使用により直接排出されるCO<sub>2</sub>排出量

※9 SCOPE2：購入した電気の使用により間接的に排出されるCO<sub>2</sub>排出量